

## 中里無庵（なかざとむあん）（1/2）

～桃山古唐津復興に挑戦した～

明治28年（1895年）、12代中里太郎右衛門（中里無庵）は中里天祐（11代中里太郎右衛門）の次男として生まれ、重雄と名付けられました。

父の天祐は代々続いた唐津藩御用窯の御茶碗師の11代目でしたが、このころの唐津焼は有田焼が有名になって、すたれてしまっていました。

重雄は小学生のころから「御茶碗師」になりたいという夢を持っていました。高等小学校を卒業する時に担任の先生から進路についてたずねられた時、重雄は、「焼物師になるため有田工業学校に行きたか。ロクロを習って焼物を作りたか。」と答えましたが、そのころの中里家は貧乏で学校に行くお金も出せないくらいでした。重雄は有田工業学校の黒田校長先生に入学したいと頼みに行きました。校長先生は良い焼物師になるために勉強に来てもよいと励まし応援してくれ、そのおかげで重雄は有田工業学校に入学することができました。

有田工業学校では特にロクロが好きで、暇さえあればロクロをしていました。先生からはその腕を認められ、模範実技の第1号に指名されるほどでした。

大正13年（1924年）父天祐が亡くなり、昭和2年（1927年）、32歳の時に12代中里太郎右衛門を襲名し御茶碗窯を復活させました。

昭和5年（1930年）、古い唐津焼の窯跡を発掘し、出土した陶片（焼物のかけら）を見て、昔の唐津焼のつくり方を再現させるというブームを起こしました。

そのころ、太郎右衛門は今のような唐津焼ではなく、クリーム色をした献上唐津という唐津焼を作っていましたので、その陶片を見てびっくりしました。

「こやんか唐津焼は見たこともなか。こいが400年前に焼かれたもんか。こやんか唐津焼ば焼いてみたか。」と、たった1片の陶片との出会いから彼の創作意欲に火がつけました。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



中里 無庵  
(1895～1985)



絵唐津陶片

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 中里無庵（なかざとむあん）（2/2）

～桃山古唐津復興に挑戦した～

～1/2からつづく～

昭和の初めころから約15年間ほど、太郎右衛門は唐津焼の古い窯跡を発掘し、その陶片から釉薬や焼き方、作り方を寝る間も惜しんで、家族も心配するほど研究しました。

昭和6年（1931年）にはその陶片から学んだ技術で「刷毛目菓子鉢」を作って商工省主催の第18回工芸美術展で入選しました。でもその鉢について、「普通の筆で描いてみましたがうまくいきません。昔の人たちにできたことが今できないことがあるかと意地を出し、大根や人参をヘラとして使ったりして、ついにはワラの芯で描くのがよいとわかりました。」と話していました。

北波多の飯洞甕下窯から出土した叩きの壺や甕の陶片を発見して「叩き作り」という技法も再現しました。これは細い紐状の粘土を積み重ね、内側に松の丸太をあて木にして、外側を羽子板の形をした木の板で叩いて形を整えていく作り方です。

他のところで叩きで甕や壺を作っている窯があると聞くと出かけて行っは、そのやり方を見て、さらに工夫を重ね四百年前の技術を用いた古唐津を再現しました。

昭和21年（1946年）、唐津焼の調査に来た加藤土師萌という焼物の先生から焼物の作り方についていろいろな助言や指導を受け、400年前の古唐津の研究をして昭和40年ころ、桃山時代の唐津焼の再現ができるようになりました。

昭和44年（1969年）、京都の大徳寺で得度し中里無庵と名前を変えました。昭和51年（1976年）には県内第1号の国の重要無形文化財技術保持者、いわゆる人間国宝に認定され、さらに昭和53年（1978年）唐津市名誉市民となりました。

さまざまな技術を復活させ、一生を唐津焼の復興のために捧げた無庵は、昭和60年（1985年）に病で亡くなりました。享年89歳でした。

無庵のすばらしい作品と研究の末復興した技術は、大切に受け継がれていくことでしょう。

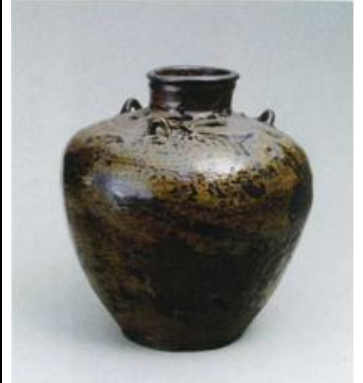
分野 人物

地域 唐津

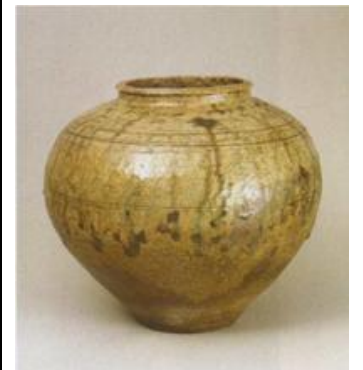
◎地図・写真・統計資料など



無庵の作品 唐津櫛刷毛目鉢



無庵の作品 叩き黒唐津三耳付壺



無庵の作品 黄唐津叩き壺  
(東京国立近代美術館蔵)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』  
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)